

2025.12.28 園内研究会の持ち方を試行錯誤する

本園では毎月園内での研究会（園内研究会）を行っています。

研究集会などがある月（6月、10月、11月）は兼ねて行っています。

福井大学教職大学院の岸野麻衣先生、宮本雄太先生、観寿子先生に午前中保育参観をしていただき、午後から保育について子供の姿を核に園職員と教職大学院の先生方で語り合うという時間を設けています。

この園内研究会は令和6年1月から他園の先生方に聞くことにしました。

それは、附属幼稚園が共に学び合うコミュニティづくりの核となり、保育の質向上のための研究会のもち方を地域へ発信したり、共に研究会を経験した先生が自分の園でもやってみるなど地域へ広がったりという部分も意識しています。またエジプトの先生方が園内研究会の様子を見に来られることもありました。

そして、園の職員にとっても、多様な視点からの見取りや考えをもらいながら、共に考えていくことで、自分の園の保育について見つめ直すきっかけになることも願っています。2023年にソニー科学する心の保育論文で最優秀賞を受賞してから県外からの視察も増えました。この園内研究会にも県外の幼児教育関係者、大学関係の方も参加していただくようになり、より広い視点から保育を見つめなおすことにもつながっています。そして、この園内研究会の持ち方自体も、より良いものになるように、いろいろと試行錯誤を重ねています。

5月園内研究会では、白梅学園大学名誉教授 無藤隆先生、京都教育大学教授 古賀松香先生に来ていただき、「愛と知の循環」としての保育実践』に本園の事例を掲載していることも受けて、当日の保育をもとに無藤先生、古賀先生、岸野先生にトークセッションをしていただきました。

7月以降の園内研究会では10名以上の県内外の先生方が参加されることもありました。とても嬉しくありがとうございました！しかし、7月園内研究会では、来られた参観者全員で園内研究会をおこないましたが、せっかく本園の研究会に参加してくださったのに、みなさんのご感想や意見を研究会の中で聞いていく中で、園職員と大学の先生方との十分な語り合いの時間が持てずに、また参観者の先生方の本当の思いや感想もじっくり聞くこともできずにいろいろな面で消化不良に終わりました。

そこで、9月園内研究会からは、全体会までの時間（12:30-13:30）で、参観者と園職員が小グループで語り合う時間を設けました。そこでは、小グループだからこそ濃厚な対話が生まれ、お互いにとってとても有意義な時間となりました。その後の園内研究会では、大学の先生方と園職員がひたすらに語り合う時間とし、参観者の方には会場でその様子を見ていただくことにしました。参観者の方の感想には、「各クラスの皆さんのが、それぞれに楽しそうに子どもの姿を発表されているのが、とても印象的でした。園全体で、クラス関係なく見ているからこそ、それぞれの担任以外の先生からこんな様子だったよ、などの話が出てきたり、あそこではこんなことしてたよと、後から共有することができるんだなと思い、連携が素晴らしいと思いました。子どもの主体性って難しいな…どこまでが主体性…？」という疑問に、今日の先生の『こんなのやってみたら？は、先生主体になるけど、自分がその子のお友達みたいに先生がやってるのを見せたら、それを見てやるかやらないかは、その子の主体性だから…』と言う話を聞いて、なるほど！と、すごく納得がいきました。本当に、皆さんのが色々な意見を出し合って、子どものことをキラキラした目で語り合っていて、とても楽しい園内研修会を見学させていただきありがとうございました」

「周りから見せていただき、とても楽しい園内研究会でした。語ることで見えてくる、子どもたちの小さな成長に、じーんとくるものがありました。自分のクラス以外の子どもたちの様子を見たり、定期的に子どもの姿を語り合ったりすることで、園全体で子どもを見ていく、という温かな雰囲気やよりよい教育のために互いに高め合われている空間がとても素敵でした。」というご意見をいただきました。

いろいろ試行錯誤する中で、この園内研究会で何を大切にすべきかが見えてきます。やはり一人一人の語り合いを大切にしたいのです。外にどんどん開きながら、じっくり語り合える場と時間を常に念頭に置いておきたいと考えています。そして、それが園の保育の質向上、子供たちの幸せへつながっていきます。

令和8年1月26日（月）、2月16日（月）の園内研究会にもすでに申込みをいただいている。また月曜カンファレンスも公開しております。ご興味ある方は是非ご参加ください！お待ちしております。詳しくは本園ホ

ームページ (<https://www.f-edu.u-fukui.ac.jp/~fuzokuyo/training/>) の「保育の質向上プロジェクトについて」をご覧ください。

令和 8 年度は、この園内研究会をさらに外に開き、毎回 20~30 名程度の参加者を募集できないかと構想しています。県内外の多くの幼児教育関係者、さらには小中学校の先生方が、もっと気軽に研究会に参加し、またお互いににとって有意義な時間になるように、これからも試行錯誤を続けていきたいと思います。

